

ひらおか

平岡地区町内会連合会
清田区平岡7条3丁目9-25
平岡地区会館内
☎ 883-7100
発行責任者 大橋 良一
編集責任者 渡辺綱太郎

来るか!!

「ごみのリバウンド現象

―豊平清掃事務所を訪ねました―

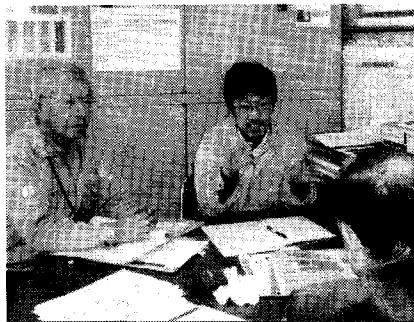
「ごみの有料化がスタートする前月（6月）駆け込み現象が起き、集積場によっては、不用品が山をなし収集作業は深夜まで続いたといます。」

それだけに、7月以降不用品の量は激減し8年越しの減量目標を5ヶ月で達成し、処理工場の一つを休業に出来るまでの成果をあげました。

さて、2年目を迎える今年の推移は……。

既に実施している市町村では有料化緊張の反動として反作用的な増量現象（リバウンド）が起きたという報告が多くありました。

減量化に取り組んで2年目になります。減量への実務もさることながら、意識の定着は如何でしょうか。



1、豊平清掃事務所の「ごみ事情」

○清田区単独の資料はありませんが、当事業所所管の資料では有料化の始まった

7月以降今年の1月までの実績によりますと、

「燃やせるごみ」34・4%

%減「燃やせないごみ」6

9・9%減「資源物」（瓶・缶・ペットボトル）24・4%

4%の増などこれらの数値は、札幌市全体の傾向と同じような結果となつてい

ます。

「資源物」の増については、回収日が少なくなったり分別化が定着したものと思われ

れます。

○減量への要因として考えられること

- (1) 景気の悪化やエコパツクの普及、家庭における上手になつた生ごみの処理の仕方。

- (2) 町内会などで段ボール箱による生ゴミリサイクルの実践などの普及。

などが考えられます。

2、冬期のごみ処理の「様子」

▼冬期間は道路幅が狭くなり、交通渋滞や集積場付近の除・排雪状況等に左右され、効率の良いごみ回収がしづらくなるのが悩みです。

▼ごみが回収された集積場には、何も残らないのが理想です。最近、町内会によっては、網やネット、組み立て式ボードなどでクラス対策をしているところも多く集積場がすっきりしているのがいいです。

▼歩道にある固定式の箱物式ステーションは、ごみ捨て場所として不法投棄の場所になつていることもあり

ます。



法投棄などについては、発見次第警察と連絡をとるのが順当の方法のようです。

3、減量化定着を目指す「意識とマナー」

○清田区は、近隣地区に比べ、ごみ処理マナーがとて

も良い地域です。

○ティッシュ・キッチンペーパーは、町内会の回覧板等の地域啓発運動が功を奏し好成績をあげています。

○家庭や町内会は、優れた実践に学び、生ごみを絞るとか「生ごみ処理機」「生ごみ堆肥化セット」などを活用しています。

○ダンボールにごみを入れるのは、雨に濡れ、形が壊れごみが散乱し、中身の確認ができないので困ります。

○ごみ収集車内での火災も増えています。スプレー缶は、きちんとガス抜きをする習慣を身に付けてください。

○「ごみ」に関する『出前講座』があります。10名以上の参加があればどこへでも出かけます。地域や町内会で有効活用してください。

大都市のごみ減量対策

地域に芽生えたごみ集積の工夫

— 具体的な作業が意識の変革を —

大都市には、人が多すぎて徹底しづらいという悩みもあれば、アイディアを生み出す頻度も多いし育てる力もまた大きい。
ある地域のある人の辛抱強い取り組みが、地域町内の意識の変革へと発展する事例を取材しました。

カア カア カラスの

『まいった君』



平岡親和会町内会
副会長兼総務部長 畔原 隆

1、集積場のヒントを探し
ごみステーションのカラス対策ではどこの町内会も悩みの種。被害を減らすために、それぞれの地域でどんな工夫をされているのだろうか？カラスが問題視されて以来、私の課題でした。

毎朝のウォーキングにカメラを携え、平岡をはじめ北野・清田・時には真栄地区へも散策を広げましたが、

「カラス対策は、結局マナー対策なんだよ。」と言う。不法投棄・ポイ捨ては、ご

なかなか意図する場面には出会えず、いつしか5ヶ月が過ぎました。

2、カラスに学ぶ
ある日、ごみステーションの近くで掃除している方々から、実情・苦情・管理方法などの様子を聞くことができました。

あるおばさんは、
「カラス対策は、結局マナー対策なんだよ。」と言う。不法投棄・ポイ捨ては、ご

なかなか意図する場面には出会えず、いつしか5ヶ月が過ぎました。

3、創意と工夫
理想と現実のギャップに悩まされながら工夫を重ねて試行錯誤の末、試作品ができました。

材料選びは苦労の連続、パネルやネット類、持ち手や塗料など多種多様、中には余計なものまで求めにホームセンターに頻繁に通う結

カラス対策の要領が掴めたので、ここは奮起一番自分で取り組もうと決意。

理想と現実のギャップに悩まされながら工夫を重ねて試行錯誤の末、試作品ができました。

初めての試みゆえ、悪戦苦闘の連続でしたが振り返ってみて、「遊び心」と「費用」と「暇」が必要である

パネルの窓穴は外からの確認と通気、手を汚さないためと操作を簡単にするため持ち手をつけました。さらに、塗装することで汚れを防ぎ、従来からの悪印象を払拭することができました。

初めての試みゆえ、悪戦苦闘の連続でしたが振り返ってみて、「遊び心」と「費用」と「暇」が必要である

ごみ扱いの意識と用具の扱いが丁寧になりました。

5、仲間の作品を大切に
ごみに対する体制（仲間が作った設備と、自分たちが創った約束）が整い、実際に運用してみました。時期が有料化と重なり

(1)自作の施設を大切に使うことは、自分の家の中から集積場までのごみの扱いが上手になりました。

(2)清掃当番の作業を通じて

果になりました。最近のカラスは、非常に利口になり、生ゴミの出る曜日、ネットを持ち上げ、ごみ袋を引き出したり、見張りをたて人が近づくと合図をおくり逃げ出す光景に幾度となく出会いました。

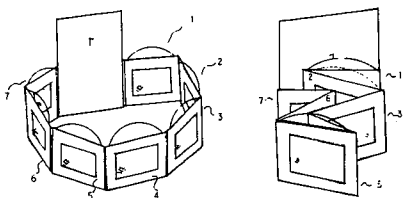
そこでごみステーションは、単に路上にごみ袋を積み上げるだけでなく、上からネットを覆い被せ、さらに回りを板囲い（サークル型）の必要を感じました。

最初にごみを出す人は、サークルを広げ、ネットを掛けることが大切な仕事です。

私がステーションに賭けた願いは……
(1)だれもが簡単に使える
(2)軽くて使いやすい
(3)清潔で調和がある
(4)最小限の費用
簡単に操作ができ、ごみの増減をパネルの枚数で（円周3.8m、8.0m）調整、

ことがわかりました。さて、親和会町内会は、約250世帯ですが会員数はおよそ200世帯で、ごみステーションは10箇所あります。その運用方法について話合い、「推進（運用）委員会」をもうけ10箇所のステーションの利用実態を調べ、いろいろ調整しながら一週間交代で「清掃当番（収集後の清掃）（冬期は除雪も）」の当番表を作りました。

最初にごみを出す人は、サークルを広げ、ネットを掛けることが大切な仕事です。



果になりました。最近のカラスは、非常に利口になり、生ゴミの出る曜日、ネットを持ち上げ、ごみ袋を引き出したり、見張りをたて人が近づくと合図をおくり逃げ出す光景に幾度となく出会いました。

そこでごみステーションは、単に路上にごみ袋を積み上げるだけでなく、上からネットを覆い被せ、さらに回りを板囲い（サークル型）の必要を感じました。

最初にごみを出す人は、サークルを広げ、ネットを掛けることが大切な仕事です。

(3)カラスなどの被害が少なくなり『みんな まいった君』になったようです。

(4)親和町内会内には8か所の集積場が次々と設置され、不法な投棄もありましたが、それも減少傾向にあります。

(5)この施設を設けたことにより、この場所が隣近所の情報交換の場となって町内の連帯意識の高揚に役立っていることが嬉しいのです。

6、7か月が経過して

このところ、施設制作者の責任から、毎週定期的に保守点検(改修・改良の有無・管理の仕方など)をしています。

みなさんこの設備に親しみをこめ、整理整頓がきちんとなされています。

それまでであった不法投棄やポイ捨て、分別の間違いや減少しています。今はこれらの困り物を、当番の方が家に持ち帰り分別・保管をするまでに意識の高揚がみられます。

7、今も 絶えない問い合わせが…

噂が噂を生み、近隣の町

内会から相談があり、創始者として心を熱くしております。最後になります。

最後にありますが、

どうだ参ったか

カア

カア

カラスのまいった君よでも

ちよつぱり可愛想だね

巷では

今『政治とカネ』

大不況に

派遣ざり

リストラで

大変なんだぜ

カア 知りませんでした

少しは我慢してね



自作の集積場と畔原隆さん

降雪37.9cmの清田区 雪と取り組む清田土木センター

を訪ねました

冬の気象は、町内会毎に変化する、といわれるほど小刻みに変わります。さらに、最近の調査によりますと、今まで多かった「夜型の降雪」が、午前に多い「明け方の降雪」に移行するのかわかると思われるような気配を感じます。

例え北半球の大都市でも、これ程の人口とこれ程雪の降る都市はありません。それだけに、札幌市の雪の取り組みは、歴史も長いし努力も工夫も世界に誇るべきものがあります。今年も、土木センター、除雪センターなど24時間体制で地域の経済圏の交通事情の確保、生活道路、歩道などの除・排雪に努力してまいりました。

1、もともと幅員の狭い道路

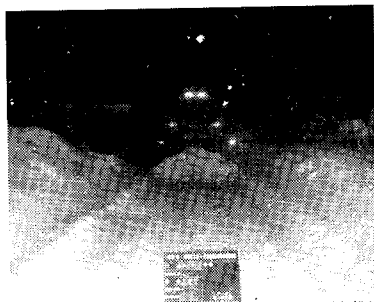
これは舗装道路自体が6m幅で、車道の横に歩道を確保すると自動的に自動車の交差自体がかなりの注意も必要になります。

平岡でいいますと

ここは、除・排雪の作業も苦勞しますし、自動車の運転にも細心の注意が必要

2、歩道確保のハンドロータリー除雪

ハンドロータリーによる



6m道路の様子

歩道の除雪作業を実際に見たことのある人は少ないと

思います。

それは、朝早く人がまだ歩き始める前に作業を終えるからです。用心のため、

除雪するロータリーの前後には要人を配置し、事故の



歩道の除雪

ないよう最大の注意を払うながら仕事を進めます。

朝早い歩道の確保は、歩行の妨げにならないことと事故のないよう注意しながら、市民がまだ動き出さない前に始動する目に見えない大切な作業です。

3、除・排雪の指示は札幌市と協議して除雪センターが…

今年の清田区の積雪は、例年多い北区・厚別区と同様に多く、特に北区よりは1mも多い積雪となっています。

除雪やパトロールの出動指示は、札幌市と除雪センターが協議しながら、24時間体制で作業等の順序をふ

くめ発令し、担当地域の除雪作業が始まります。

作業は、1車線につきグレーダー、ショベルカーが1台ずつセットになって動きます。因に平岡・北野の生活道路は12台が配置されフル回転します。



幹線の除雪 (参考)

4、悩みつきない違法駐車と雪の山

理解の仕方や意識が変われば、これ程長い間の悩みにはならないでしょう。

行政・地域・業者等の代表が鳩首会談を辛抱づよく継続することの大切さを感じます。

5、嬉しい激励や励まし
ジンジンと電話のベル、さては、苦情？

「ハイこちら除雪センターですが……」



違法駐車 (参考)

「もしもし、除雪センターですか。今日は、とてもきれいに排雪して戴きました。有り難うございました」

「おーい！お礼の電話だよ。疲れた体にいっぱいの清涼剤。作業をする側とされる側とが相互に心が通じ合えたと思うと、あれこれ要望の多いこの頃ですが、当事者の疲れを癒し、ホッと心身に温もりを感じるひとときでもあります。」

高齢化世帯と かきわけ除雪

広報さつぼろ2月号から (原文掲載)

除雪車が、隣の家の路上駐車車両を避けてカーブするため、わが家の前に大量の雪を置いて行きます。とても困っています。
(白石区 80歳男性)

除雪作業にも、いろいろな状況があります。が、年齢がかさむ毎に、例えば健康であってもその作業能力は落ちていきます。ましてや、身体に不自由を抱えている人においては押して知るべしです。

1、「かきわけ」除雪
作業のスピードと量との

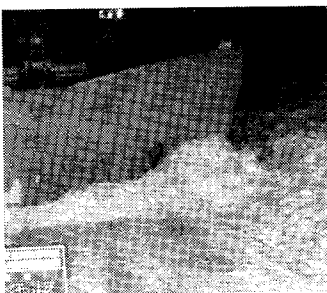
関係から練り上げられた方法だと思います。除雪の必要面積と降る雪の量と時間との関係から考えると「かきわけ方法」に頼らざるをえない事情もわかります。

2、増える高齢世帯
しかし、かき分けられた雪(時間をおけば固くなる)

は、高齢世帯にとつてその作業量の負担は大きくなります。当分の間、その数は増えこそすれ減ることは予想できません。

3、計画が解決

だとすれば、いつまでも「かきわけ」除雪でいいわけではない。当分の間の便法か……などと勝手な解釈をする。当面、高齢に逆らって頑張る決意をする。しかし、その頑張りを長持ちさせるには、何年経てば……なるはずだ、さらに何年経てば……なるという計画が鍵です。先が見えなければ闘志はしぼみます。その計画が見えないとすれば、すべてが不満につながってしまふという結果になりかねません。



かきわけ除雪

あとがき

間もなく平岡に、また南東の風の季節がやってきました。雪をとかし、大地や木の梢に温もりと春のひかりを運んでいます。

3月14日、早くもジャスコのカラマツの樹上にアオサギの雌雄の巣作りが見えました。

広報「ひらおか」は、年間2回(夏号・冬号)それぞれ6ページずつ12ページで編集・発行する計画で運用しております。

実は、今年度(平成21年)の夏号(第32号)は、「ごみ有料化特集号」として編集し、止むを得ず結果として8ページだてにいたしました。

従って、今回の冬号(第33号)は、4ページだての発行となり、いつもですと最終ページは「みんなのページ」として、詩歌・書・絵手紙などの紹介ページを創つてきましたが、今回は止むなく割愛させていただきました。

(町連広報部)